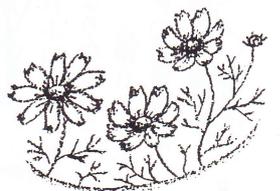




題字 林 邑 一

第 11 号
平成2年10月1日
阿品台地区
コミュニティをすすめる会
阿品台公民館
(TEL 39-4338)
阿品台人口世帯数
平成2年2月1日
人口 男 5,660人
11,761人 女 6,101
世帯数 3,371世帯



コミュニティってなんだろっ!!

① 遠い親戚より 近くの他人

家に急病人が出たとき、家を留守にすると、不幸にして葬儀をしなければならぬとき、そのようなことを考えた場合、隣近所に心やすい人が沢山いてくれたらどんなに心丈夫でしょう。

今まで家庭に閉じこもりがちだった主婦が、近隣の人達と一緒に手芸とか料理とか趣味のサークル活動を楽しみ、その輪を広げていったらどんなに楽しいことでしょう。

近隣に助けを求める気持ちや、隣近所の人達と楽しみを分かち合ったりする気持は、今も昔も同じです。家族の結びつきとともに近隣の人達との結びつきは、生活上欠かせないものといえるでしょう。

最近よく言われているマイホーム主義という他人にわずらわされない生活も、それなりの価値があ

るかもしれませんが。しかし、私達の日常生活の中には、例えば、子供達の教育問題、交通問題、環境整備、防火防災問題等々、地域の人々の協力と信頼関係のうえに成り立つ生活領域があることも確かです。

豊かな人間生活は、家庭と地域社会がバランスよく役割を分担し協力したときにもたらされると言えるのではないのでしょうか。

② コミュニティづくりの 主役はあなたです

私達が住んでいる地域を住みよくしていくためには、個人や家庭の力だけではおのずと限界があります。住みよい地域社会は、そこに住んでいる人々のお互いの理解と信頼のうえにたつた連帯と協力によって築かれるものといえましよう。

この地域が、うるおいのある住みよいところになってほしいという願いは、誰もが共通して持つっており、この願いの実現は、みんなのあたたかい心の通い合い、ふれあいから生れてくるものです。地域の人々が相互に交流し、共通の活動や共同の経験を積み重ねたり知恵を出し合ったり、力を合わせて共同の生活課題を解決していくことが大切であり、それがコミュニティづくりの基本といえるのでしよう。

そのためには、あなたまかせの考えは捨てて、一人ひとりがお互いに協力し合って自主的に活動しなければなりません。コミュニティづくりの主役は、権利と責任とを自覚したあなた自身なのです。地域社会への愛情もそこに住む人々の力やエネルギーが、コミュニティ活動に積極的に発揮されるなかから生れてくるのでしよう。

わたし達の生きがいも、地域のなかで自分の得意なことを、地域の発展や人々のために役立てたり、そのような活動を通じて楽しさや心のふれあいを発見したり、あるいは、その役割を果たしたときの充実感からも得られるでしょう。

③ コミュニティづくりと 住民参加

今日において、地域社会の利害関係が複雑多岐になり、住民の意識や価値観も多面的になってきています。

一定の地域の多様な価値観を持つ人々々が、それぞれ自ら参加するいろいろな活動を通して、地域社会における利害を調整したり、共通の課題を解決したり、それぞれの生活を充実していく過程において、コミュニティが形成されていくといえるでしょう。

コミュニティづくりの主役はわたし達自身にあります。地域社会には、住民が相互扶助によって処理すべき問題と、専門の行政サービスがそれを行うべき問題とが一体となって存在しています。

行政の役割としては、コミュニティ活動が活発に展開されるための条件づくり、環境づくりを積極的にを行うこと、例えば、コミュニティ施設の整備に対する援助、コミュニティに関する情報の提供、コミュニティ・リーダーの発掘と養成、ボランティア活動の促進などは、行政が主たる役割を担う分野といえましよう。

このように、これらの問題解決については、住民相互、あるいはコミュニティ活動と行政サービスとがそれぞれ役割を分担しあって協力していくなかから、本当の解決が図られ、コミュニティづくりもすすんでいくのではないのでしょうか。

(資料提供・広島県民課)



こんにちは えがおいっぱい
花ばたけ

宮園小一年 いのゆきは
(青少年育成廿日市市民会議入選作)

消防署西分署・コミュニティ消防センターの建築工事が始まる

廿日市市消防本部では、かねてから阿品台公民館西側に消防署西分署とコミュニティ消防センターの設置を計画しておりましたが、先の七月三日起工式を終えいよいよ本格的な工事に着手しました。今年十二月には阿品台地域を災害から守る拠点として、既に昭和五十八年に発足した消防団阿品台班と連携し活動を開始する運びとなっています。

西分署の規模は、鉄筋コンクリート二階建、建築面積二六〇㎡、延面積三六〇㎡、地下には四〇㎡の防火水槽が設置されます。又、発足時の組織体制は、水二〇〇ℓ積載の最新鋭消防ポンプ車及び救急車等三台の車両と隊員二名を配置しスタートすることとなっております。併せて設置するコミュニティ消防センターは、鉄筋コンクリート平屋建、建築面積二二〇㎡、延面積六〇㎡で可動式壁を開くことにより、阿品台公民館ホールと接続し多目的に使用できる構造となっています。今後、阿品台地域住民の自主防災活動の中心となり、火災の早期通報、初期消火、避難誘導及び応急手当等の防災知識の普及を図る場として活用されることが期待されます。これらの施設は、安芸の宮島を眼下にしたこの美しい住宅環境と住民生活の安全を守るため

に大きな役割を担うことになるでしょう。

消防署西分署等設置にあたって消防長からのメッセージ

日本三景の中でも最も美しいといわれる宮島や能美島などの島々が浮かび、大小の舟が行き交う瀬戸内海を指呼の間に望むここ阿品台地区は、海辺や緑豊かな自然環境と交通の便に恵まれ、誰もが住んでみたいと思う日本一の素晴らしいまちではないでしょうか。

地区住民の皆さんは、この恵まれた居住環境の下に快適で心豊かな市民生活を営んでおられることと思います。

しかしながら、一度火災やガス爆発、集中豪雨等の災害が発生した場合には、財産の損失ばかりではなく人命をも脅かし快適な生活はもろくも崩れてしまいます。

そうした意味で、防災体制を強化し、より災害に強いまちづくりを進めることは住民生活の安全を確保するうえで必要不可欠なことなのです。

阿品台公民館西側に建築中の消防署西分署とコミュニティ消防センターは、十二月開設を目指し、今鋭意工事が進められています。完成後には、阿品台地区の快適な居住環境にもう一つ安全性が加わり、よりグレイドの高いまちのイ

メージをもたらすことでしよう。言うまでもないことですが、真に災害に強い安全で住みよいまちづくりは、消防施設を増やすだけで満たされるものではありません。何といっても地区住民一人ひとりの「我がまちは自分達で守る」という自覚と連帯協同意識が必要なのです。

新しくできるコミュニティ消防センターを積極的に活用し、火災予防知識や救急応急処置等を身につけ、皆さんの阿品台を名実ともに安全で快適な居住環境として維持発展させていただきたいものと思っております。

消防施設の設置にあたって皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

「快適な生活につながる
防火の輪」

(資料提供・廿日市市消防本部)

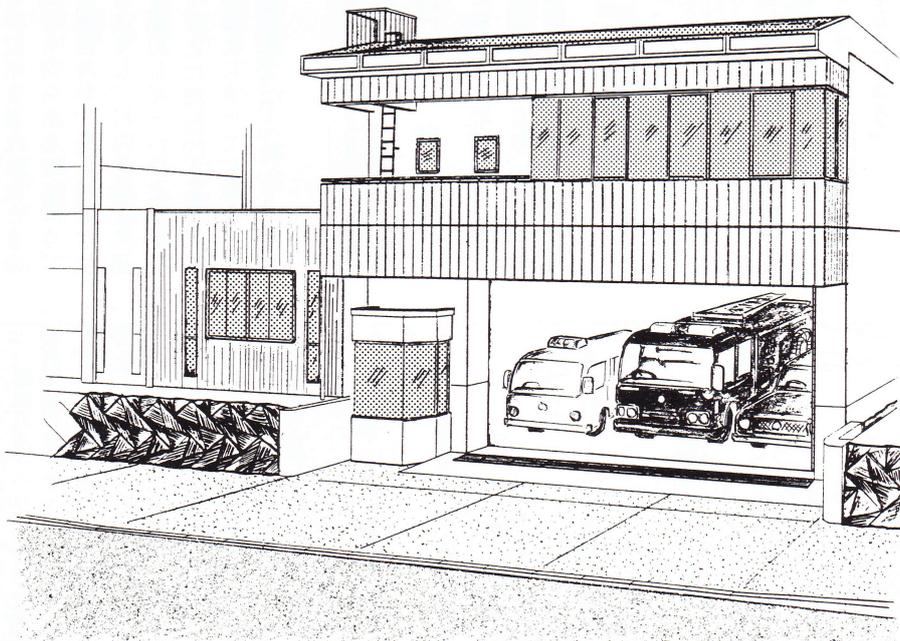


あいさつは まつよりかけよう
大きな声で

平良小三年 久兼まい子

(青少年育成廿日市市民会議人選作)

北側から見た完成予想図



公民館側
コミュニティ消防センター

コミュニティー広場

子どもの健やかな成長を 願う廿日市おやこ劇場を

一丁目 中 曾 恵 子

一九九〇年一月二十一日、廿日市に「おやこ劇場」が産声をあげました。全国で六六三番目に出来た「おやこ劇場」です。全国には六八三のおやこ劇場があり、五三万人の会員がいます。

ところで、皆さん、「おやこ劇場」って何かご存知でしょうか？
日本で最初の劇場は福岡市に生まれました。一九六六年に出来た「福岡子ども劇場」がそれです。この時期は子どもたちの生活が急激に変化しはじめたときでした。受験競争で追いまくられ、カラーテレビの普及が子どもたちを家の中に閉じこめ、ひとりぼっちの受身の生活が多くなりはじめた時期でした。

そうした子どもたちの状況に不安をもち、何よりも子どもが健やかに成長できる場をつくりたいという願いのもとに、お母さんと青年の手によって、子ども劇場は始められました。そして、生のすぐれた舞台芸術の鑑賞と子どもたちが自主的にのびのびと活動できる場をつくることを運動の二つの柱

にすえ「子どもに夢を／たくましく豊かな創造性を／」を合言葉に熱い思いのなかで出発したのでした。福岡子ども劇場の発足時は一九二名という会員数でした。

この福岡の劇場運動は、各地に大きな関心をよびおこし、「自分たちの地域に子ども劇場・おやこ劇場をつくらう」という声となり、しだいに全国にひろがっていきました。そして今では六八三劇場、会員数五三万人という大きな輪にひろがりました。

広島県にも一九六九年に広島おやこ劇場が発足しましたが、現在では廿日市を含め二四劇場、一万二千五百人の会員がいます。

劇場がはじめて出来た頃の子どもの状況と現在をくらべてみますと、受験競争はますますきびしくなり、低年令化してきています。遊びもファミコンなどの室内のひとり遊びがほとんどです。

子どもたちが健やかに成長できるようにという親の願いは昔も今も変わりません。子どもをとりまく状況がきびしくなってきた今こそ、「おやこ劇場」のような場が必要になってきていると確信しています。

廿日市おやこ劇場は廿日市市を

中心に大野町、佐伯町、湯采町在住の会員で構成されています。一月の発足時には二五〇名の会員でしたが、現在七〇〇名余りにと増えました。

残念なことに廿日市には文化的施設がほとんどなく、文化ホールもありません。こういう状況の中でも自分たちの住んでいる地域で生のすぐれた舞台芸術を鑑賞したい、子どもたちと心豊かになる文化をつくりたいという願いは強く、廿日市中央公民館の決って広いととは言えないホールで舞台鑑賞を例え活動としてきています。

自主活動としては四月の「女性の集い」に出演したり、七月にはもみの木森林公園での親子キャンプ、八月初めには子どもたちと青年だけのキャンプを大竹の三倉岳でおこないました。

この阿品台には一九〇名近くの会員が住んでいます。「地域のすべての子どもたちが生の舞台に接することができれば……」という思いでとり組んだ阿品台公民館での七月地域公演にはコミュニティー文化部にも協賛していただき、成功させることが出来ました。大変ありがたく、感謝しています。

おやこ劇場の『子どもたちが健やかに成長できるように』『全ての子どもたちが自分たちの文化を育てていけるように』という思いはすべての親の、いえ、すべての大人の願いだと思います。そして、文化とは地域社会の中から生まれ

てくるものです。これからも、子どもたちのために地域の人達と協力しあってゆけたらと思っています。

ラブ・ユー・阿品台

早朝の阿品公園を歩いていますか、夕暮どきの並木道を歩いていますか。朝日が顔をのぞかすときの瀬戸の島々、夕日に映える瀬戸の山々、阿品台には、こんな人々にやさしい、緑濃いスペースがあるから好きなんです。

ある人は、阿品台に住むようになった理由の一つは、この街を暖かく包んでくれる「海と山と緑」だと言います。その人その人にとっての阿品台、その共通意識は、ラブ・ユー・阿品台。

こんなすばらしい街に、軒を連ねて住むようになったのも何かの縁、いつまでもこのすばらしさをお互いの努力で維持してゆかなければなりません。

そこで今回は、こんなすばらしい街の一角で拾った心温まる話題を一つ紹介しましょう。

四丁目の「Kさん」(御本人の強い希望で、残念ながら匿名とします)。

「Kさんのおじいちゃんは、いつも道路や溝のゴミをきれいにしてくるんネ。」

「公園の手入れなんかもして下さっているのをよく見るヨ。」
四丁目のKさんといえば知る人

ぞ知る。四丁目の町内ではKさんのことがしばしば話題に上る。

四丁目のゴミ収集日は月、火、木曜日で、その日は早朝からゴミ袋と火バサミを持って、公園の草むらや溝に捨てられた紙くず、空きカン、ビン等を集めてゴミ集取場所へ出してくれる人、これがKさんなのです。

四丁目は高校への通学路になっている。だからと言って「高校生が」と言うのではないが、五丁目との間には広くて長い緑地公園があつて、多くの人々の憩の場になっています。せつかくの憩の場も、心ない人によって紙くずや空きカン等で汚されます。そのゴミを集め、更につつひとつ分別している人を見かけます。これがKさんなんです。

Kさん、いつもありがとうございます。道路はみんなのもの、公園はみんなのもの、Kさんの善行に甘えてはいけません。このすばらしい環境は、わたしたち一人ひとりの心がけ一つで更にすばらしいものになるんです。お互いに気をつけたいものです。

みなさんの周囲に、こんなほのぼのとした話題はありませんか。こんなことがあるから皆さんに紹介したら、というようなことがあれば、又、次号で紹介しましょう。話題を事務局(公民館)までお寄せ下さい。お待ちしています。

(広報部)

盆踊り大会

盛大に開催さる

今年数えて十一回目になるこの大会も、好天に恵まれた八月四日(土)阿品台東小学校校庭で、阿品台地区各町内会並びに子供会等の参加を得て、文字どおり大きな地域の輪をつくり、盛大に開催されました。

実行委員並びに各町内会、子供会でお世話をいただいた多くのみなさん、お疲れさま、ほんとうに御苦労さんでした。

コンテストでは、三丁目町内会が昨年に続いて優勝の栄冠に輝き、大トロフィーを手にしました。

実行委員長の米村さん(二丁目)は、「毎年同じ内容の行事でありながら、毎年同じことを各町内会



“ちょっと気取って”

へ説明し協力を求めなければならぬ。それは、多くの町内会は一年の任期で会長さんが交替されるからで、毎年同じ説明をするのが面倒というわけではないが、ここらあたりがなんとかならないものか。」とボヤク。

会長人事は、それぞれの町内会でお家の事情があることだからとやかく言えないが、と前置きをしたうえで、「交替されるときには、年中行事についてはしっかり引継をしておいてほしいなあ。」と希望を述べたかわら、多くの人達の協力に対する感謝のことばも忘れない。

踊りのコンテストについても、「出演するチームが四〜五チームでは淋しい。せつかく大きな輪ができたのだから、こんどは、一つひとつの踊りの輪をもっともつとふやして、大きな踊りの輪にしてほしい。」と来年に大きな期待をよせていた。(広報部)



“子供達でにぎわう夜店”

川

(自由吟)

飲んでいる 時が自分の
世界です

息子さん ですかと若く
みられた電話口

コスモスを 見ながらダンス
曲を聴き

音楽と 花が好きです
生きてます

金魚草 亡母が好きだから植え

自叙伝で はじめて知った
人の過去

絵のわかる 顔で見ている
美術館

柳

(宮島雑感)

せんべいに
鹿は子供を取り巻いて

子供らは
子供の鹿にせんべいやり

後から
来てせんべいみな取られ

もみじ饅頭
小さなお手でと同じ形

五重の塔
目当てにして道迷い

お魚の
顔おもしろい 水族館

宮島の
鳥居の前で 潮干狩
山の手 森 川 抜智 作

JR阿品駅利用者の声

① 駐輪場に屋根を

阿品駅利用者の多くは自転車、バイクで乗り入れています。幸い駐輪場は十分確保されています。ありがたいのですが、更に注文をつけさせていただくなら、これに屋根がほしいですね。

朝出かけるときは雨でないからバイクで出て行く。天気が変わって雨になり、帰ってみればバイクはズブぬれ、帰って帰れないから置いて帰る。一晩中雨ざらしということになるんです。なんとかありませんか。

② 阿品駅前にバス停を

駅へ自転車、バイクで乗り入れる者も多いが、バスで出て行く者もけっこう多いんです。みんな、ふじタウン南のバス停から徒歩というの実態です。

あのバスが、駅前入口の角にでも停車するようになれば、バス利用者はどんなにか便利になることでしょう。特に雨の日は……。今回は、この二点についてのお願いです。関係当局のみなさんよろしく願います。

標語は青少年育成
廿日市市民会議 入選作

ごめんなさい!この一言に
勇気をもって

平良小五年 藤本 百香

あいさつで ふくらむ人の和
地域の輪

地御前五丁目 奥野 法保

さりげなく かわす笑顔に
はずむ声

宮園六丁目 久保 典子

編集後記

なぜか/いつの間にか/今年度の広報部担当を命ぜられ、暗黒横索の状態からやっと四ページの紙面を、どうにか埋めることができました。これもみなさんのおかげです。

「とにかく、読んでもらえるようなものに。」を念頭において編集したつもりですが、読んでいただけましたか。どれかが何かの糧になれば幸いです。

編集にあたって、資料を提出して下さった関係者のみなさんありがとうございました。紙上から厚くお礼申し上げます。

又、終始熱心に編集に取組んで下さったスタッフのみなさんありがとうございました。次号もよろしく願います。

(広報部・竹下)